

イルミネーション トンネル点灯 温泉街を 暖かく包み込む



イルミネーションをカメラに納める来場者

12月20日、洞爺湖温泉のにぎわい広場に設置されたイルミネーショントンネルが点灯を始め、まばゆい光が温泉の冬を暖かく包み込みました。
2008年のサミット開催の

200日前イベントとして設置されたのがきっかけで、今年で4回目となります。

町内出身者が勤務する、静岡県としまのすみかの総合レジャー会社「時之栖」からの寄贈を受けた40万個の発光ダイオードなどの電飾が、約70の光のトンネルとなつて、幻想的な雰囲気醸成しました。

点灯式では、真屋町長が「洞爺湖温泉観光の目玉にしたい。多くの人に見てもらい、賑わいをとりもどしたい」と挨拶。

訪れた住民や宿泊客らは、明るい光を放つ青や橙などのイルミネーションに見入っていました。

点灯は、2月20日まで毎日19時から22時。



光のアーチを笑顔でくぐる子ども達

町の玄関口に イルミネーション 利用客らの目を奪つ

12月15日JR洞爺駅前広場のイルミネーションアーチが点灯され、利用客の目を釘付けにしています。

町と商工会が町活性化を狙い、静岡県の総合レジャー会社「時之栖」から提供を受けて昨年からは始めたものです。

同広場には、約30万にわたつて電球3万個が飾り付けられ、階段には高さ5mのアーチも設置されました。

イルミネーションは、2月13日まで毎日17時から20時まで点灯しています。

地域住民から 意見を聴く 町政懇談会開催



活発な議論が交わされた町政懇談会

ま ちづくりについて意見等を聴く町政懇談会が、12月7日から12月22日まで町内8カ所で開かれ、町と地域の問題などまで幅広い意見が出されました。12月10日あぶたふれ合いセン

ターで開かれた懇談会では、最初に真屋町長からの町政報告があり、洞爺湖温泉誕生100年事業の経過説明「夏のゲリラ豪雨での被害」などについて説明。引き続き伊藤税務財政課長から財政の健全化にむけて現状の報告があり、計画より早い形で財政健全化団体からの脱却が実現できる見通しとなったことが報告されました。

町民からは、清水の林道整備について早急に手をつけてほしい「開発の除雪費カットの話があるが、町の除雪費もカットとなるのか。町はしっかりやってほしい」公共施設の使用料の見直しで、自治会が使用する場合も、料金が発生するのか」など多くの意見が出されました。